

三苦遺跡群6

—第6次調査報告—

2006

福岡市教育委員会

序

福岡市は古くから大陸よりもたらされる様々な東アジア文化を受け入れる窓口として栄えてきました。人・物の交流は盛んで、その結果数多くの歴史的遺産が培われて今日に至っています。これらかけがえのない遺産を保護するという立場から、福岡市教育委員会では、市内の遺跡把握に努め、時には発掘調査を行って記録保存という形で往時の有り様を後世に伝えています。

本書は平成16年度に行いました、三苦遺跡群第6次調査の内容について報告するものです。今回の調査により判明した多くの成果は、この地域における歴史を考える上で大きな手がかりとなるでしょう。本書が市民の皆様の埋蔵文化財、ひいては地域の歴史に対する御理解の一助となり、また考古学上、地域史上の研究資料として御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の調査において費用の負担をはじめとする御協力を戴きました、堺秀喜氏をはじめとする関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 植木 とみ子

一例言一

- ・本書は福岡市教育委員会が2004年11月2日から11月19日にかけて行った三苦遺跡群第6次調査（東区三苦6-1268）の報告である。調査は藏富士寛が担当した。
- ・本書の執筆、編集等は藏富士が行った。尚、遺物実測には米倉法子の手を煩わせた。
- ・本書における方位は磁北であり、遺構については、土坑（SK）、溝（SD）、等の略称を使用している。
- ・本書に関わる資料は、この後福岡市埋蔵文化財センターに収蔵される予定である。

目 次

Iはじめに	3
1. 調査に至る経緯	
2. 調査の組織	
II位置と環境	4
1. 地理的・歴史的環境	
2. 三苦遺跡群	
III調査の記録	7
1. 遺跡の状況	
2. SP	
3. SD	
4. SK	
IV終わりに	10

挿 図 目 次

図1 調査地点(1/4,000)	4
図2 三苦遺跡群の位置(1/25,000)	5
図3 三苦4・6次調査(1/400)	6
図4 遺構配置(1/100)	7
図5 土層(1/100,1/40)	8
図6 杭(1/40)	8
図7 SD(1/40)	9
図8 SK(1/40)	9
図9 出土遺物(1/3,1/2)	10

図 版 目 次

図版1 上 調査区南西側完掘(南東から) 中 調査区北側完掘(東から) 下 調査区南東側完掘(北から)	
図版2 上 SK019(西から) 中 SK069(西から) 下 調査区東側SK(東から)	

I はじめに

1. 調査に至る経緯

平成16年6月9日、堺秀喜氏より、東区三苦6丁目1268における共同住宅建設に関して、埋蔵文化財課に対し、埋蔵文化財の有無に関する照会がなされた。この地点は三苦遺跡群の範囲内であり、第4次調査の隣接地であったことから、遺構の存在は確実視されていた。両者協議の結果、遺跡への影響は避けられないということになり、遺跡の記録保存という形での対応が採られることとなった。

発掘調査の開始は2004年11月2日。11月19日にすべての作業を終了した。調査にあたって、堺秀喜氏を始めとする関係各位には、多大な御協力を賜った。記して感謝したい。

2. 調査の組織

調査は以下に示す組織で実施した。

調査主体	福岡市教育委員会
調査総括	埋蔵文化財課 課長 山口謙治
	調査第2係長 池崎譲二
調査庶務	鈴木由喜
調査担当	調査第2係 蔵富士寛
調査作業	寺園恵美子 小路丸嘉人 石川君子 永田優子 池聖子 小池温子 増田ゆかり 中野裕子 永田律子 阿部幸子 早川 浩 幸田信乃 夏秋弘子 吉川暢子 菌部保寿
整理作業	柴田加津子

遺跡調査番号	0462		遺 跡 略 号	MTM-6
地 番	東区三苦6丁目1268		分 布 地 図 記 号	28三苦
開 発 面 積	542m ²	調査対象面積	183m ²	調査面積
調 査 期 間	2004.11.2 ~ 2004.11.19			

II 位置と環境

1. 地理的・歴史的環境

三苦遺跡群は福岡市域の東側、博多湾の北側に突き出した「海の中道」基部の北側に位置し、砂丘上に形成された海岸沿いの丘陵斜面を占地する遺跡群である。この周辺にはいくつか注目すべき遺跡が存在する（図2）。低地を隔てた東側の丘陵上には、三苦永浦遺跡があり、弥生～古墳時代の集落、および古墳時代後期に相当する小形の前方後円墳2基が調査されている。また、南東側3km程の博多湾岸には唐原遺跡があり、弥生時代後期～古墳時代前・中期にかけての大規模な集落が見つかっている。

2. 三苦遺跡群

三苦遺跡群ではこれまで5次にわたる調査が行われており、旧石器・縄文時代の遺物・遺構、弥生時代～中世にいたる集落、そして古墳群等、その内容は多岐にわたる。中でも第2・3次調査時に検出された古墳時代の滑石製品工房跡と目される竪穴住居や、三累環頭大刀等が出土し、周辺地域における首長クラスの墳墓とされる三苦京塚古墳などの調査などは、特筆すべきものといえるだろう。

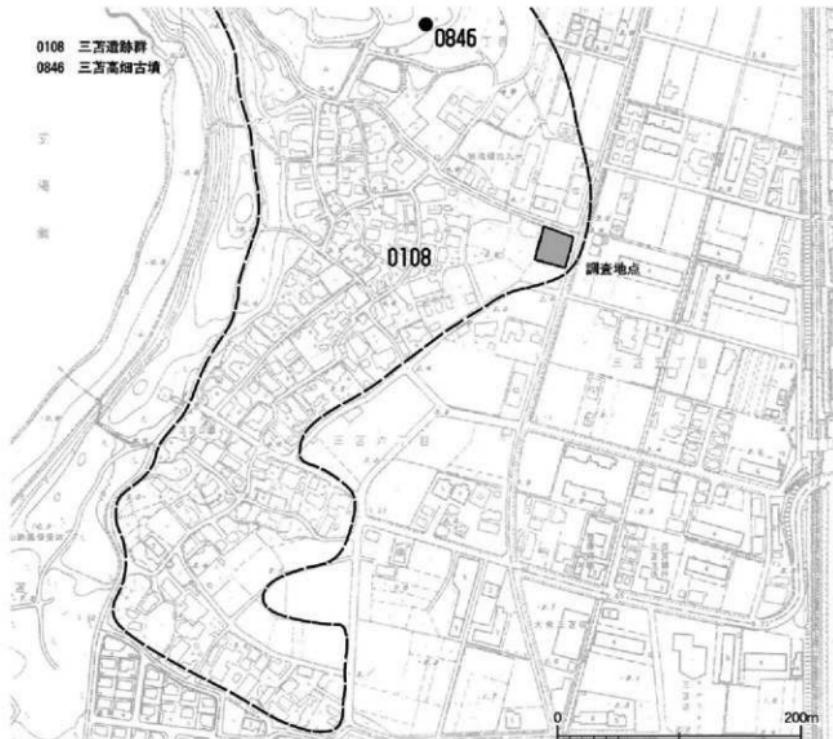


図1 調査地点 (1/4,000)

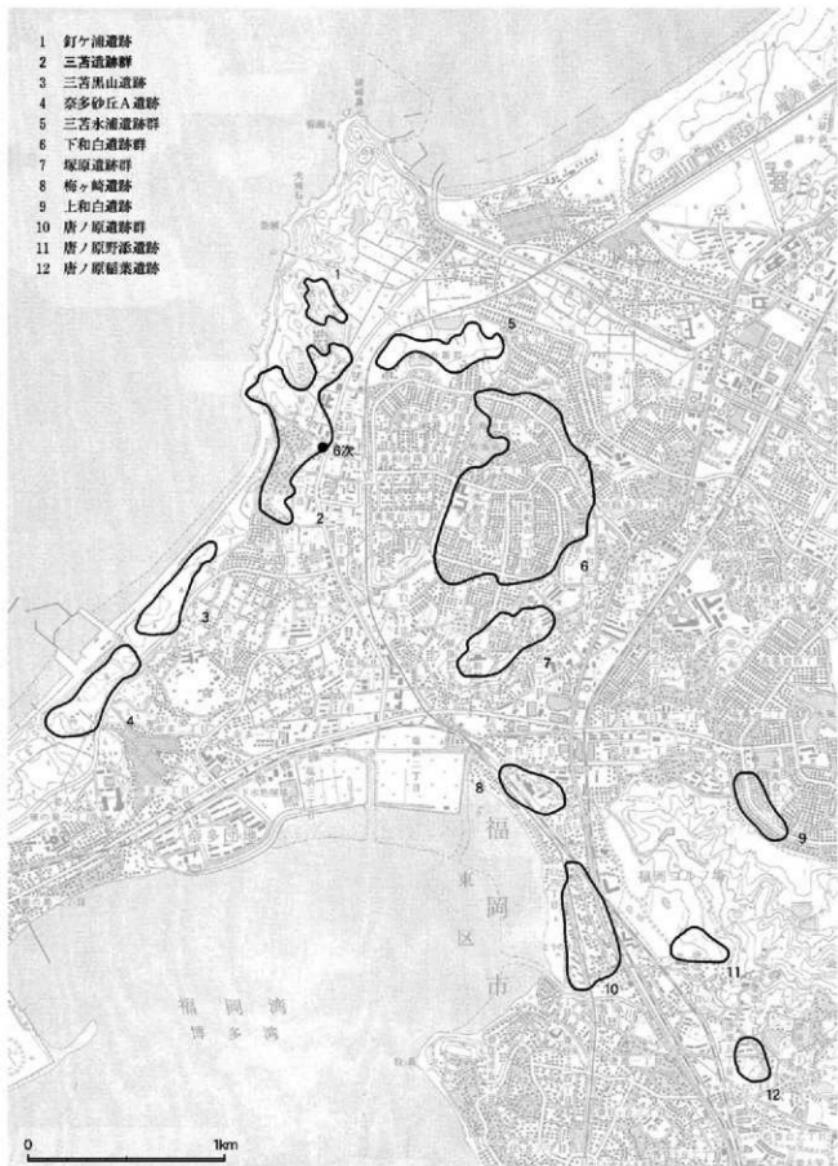


図2 三苦遺跡群の位置 (1/25,000)

また、今回報告する三苦遺跡第6次調査地点の東隣では第4次調査が行われている（図3）。第4次調査では、水田跡、掘立柱建物、溝、土坑といった、中世後期から近世初頭にかけての遺構が検出されており（久住編1998）、今次調査地点との関連が注目される。

久住猛雄編1998『三苦遺跡群3』—第4次調査報告一 福岡市埋蔵文化財調査報告 第548集

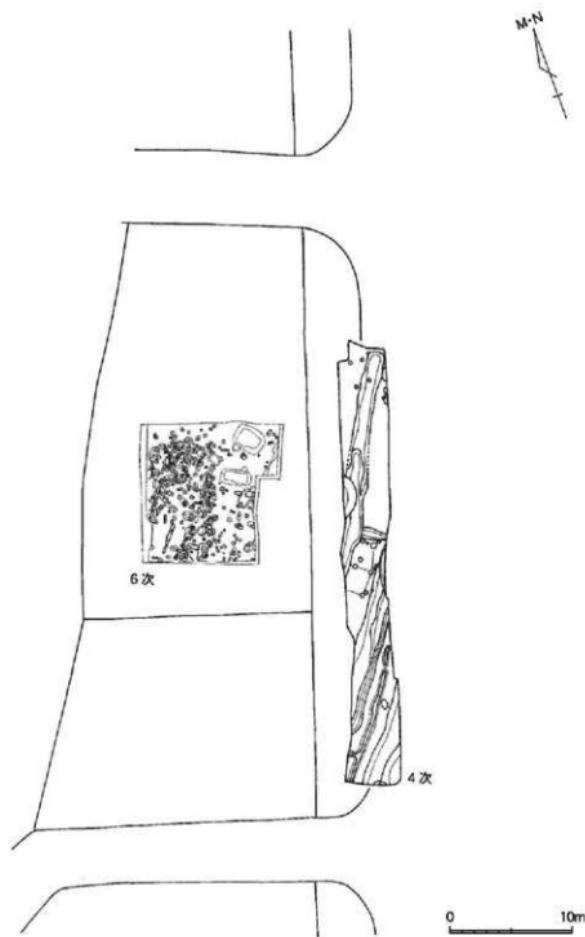


図3 三苦4・6次調査 (1/400)

III 調査の記録

1. 遺跡の状況

調査はまず、重機による表土剥ぎより開始した。客土等、現地表より1.8mの掘り下げを行い、標高約2.5mの黄灰～灰色シルト質土上に遺構面を設定している(図5)。排土処理の関係で、調査区を3つに分けて調査を行っている。検出した遺構には溝(SD)、土坑(SK)、そしてピット(SP)があり、以下では各遺構についての所見および出土遺物について述べる。

2. SP

調査区西側を中心に多くのピットが密集して検出できた(図4)。ピットは大きさ、深さ等不揃いが目立つ。また、ピットの中には木材が遺存しているものもいくつか見つかっている(図6)。この内のいくつかは先端部に加工が施しており、必ずしもピットの中から検出されるものでもない。これら木材の多くは建物等の柱材というより、木杭と見なすべきであろう。これら杭の配列には有意性を見いだすことはできない。尚、近隣で行われた第4次調査では、杭列の存在も確認されている。

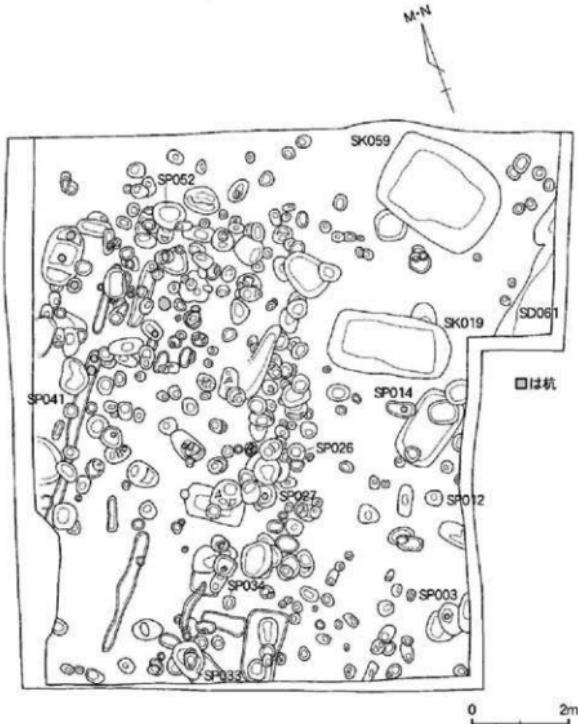


図4 遺構配置 (1/100)

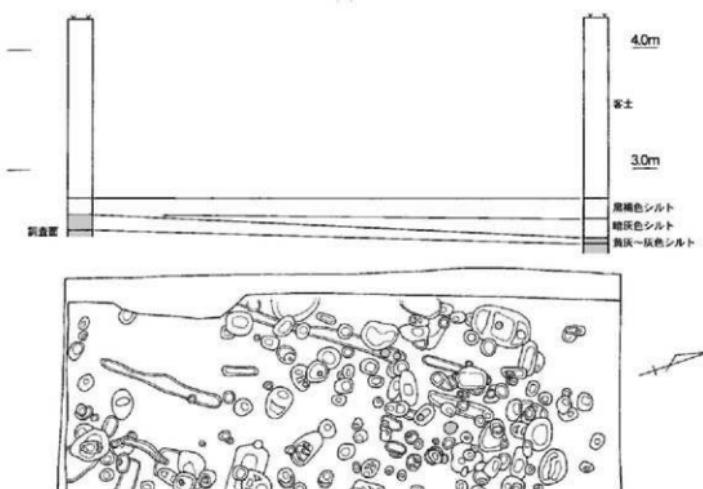


図5 土層 (1/100,1/40)

出土遺物(図9) 遺物の出土はごく少ない。5は擂鉢口縁部片である。6は弥生時代中期の甕底部片。7は染付の底部片。8・9は土師器杯。8は口径(復元)12.2cm、9は口径(復元)11.2cmを測る。いずれも底部は糸切りによる。10は陶器甕の底部片。11~13は土鱥。

3. SD

SD061(図7) 調査区東端部に存在するもので、北側に張り出し部のある平面形状をみれば、他の溝に一部切り込まれていたのだろう。深さは0.2m程で、大部分が調査区外に存在するため、溝の幅は不明。方向、規模等をみれば、第4次調査にて検出されていた溝(SD04等)との関連が指摘できるだろう。SD04は15~16世紀に比定されており、この所見は、以下に述べるSD061出土遺物とも矛盾するものではない。

尚、今次調査区では、SD061の他にも、同一方向を流れる小規模な溝が数条検出されている。溝はいずれも浅く、深さ10cmにも満たない。遺物は出土していないため、時期は不明。

出土遺物(図9) 3・4は土師皿である。底部はいずれも糸切りによる。

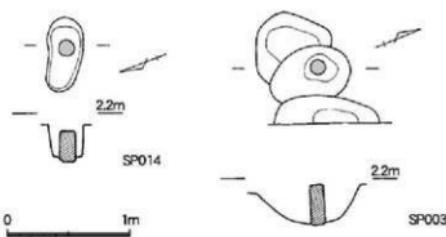


図6 池 (1/40)

4. SK

SK019 (図8) 調査区中央やや東よりに存在する。隅部が丸みを帯びているが、平面は長さ2.5m、幅1.2mの長方形を呈している。深さは30cm程で、底面は平坦に仕上げられており、各壁面の立ち上がりもしっかりとしている。埋土は黒～暗褐色シルト質土。底面の高さは標高約1.8mで、付近では湧水が認められる。遺物の出土はごくわずかである。
出土遺物(図9) 2は国産陶磁器碗の口縁部片である。体部半ばが屈曲し、口縁部は大きく外反する。口縁端部には段を有する。体部の途中まで灰色の釉がかかる。

SK059 (図8) 調査区北東側に位置する。各辺はわずかに丸みを帯びているが、底面隅部は直角をなしており、本来は長さ2.5m、幅1.6m程の平面長方形を呈していたのだろう。SK019に比して、長さは等しいが、幅広であるといえる。

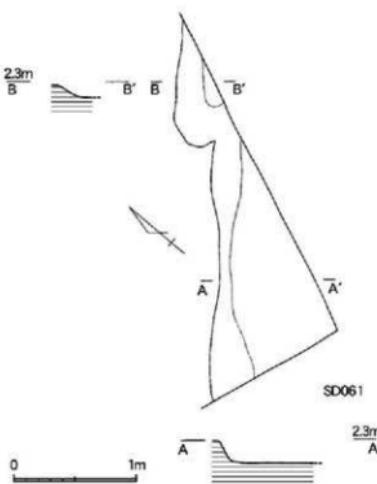


図7 SD (1/40)

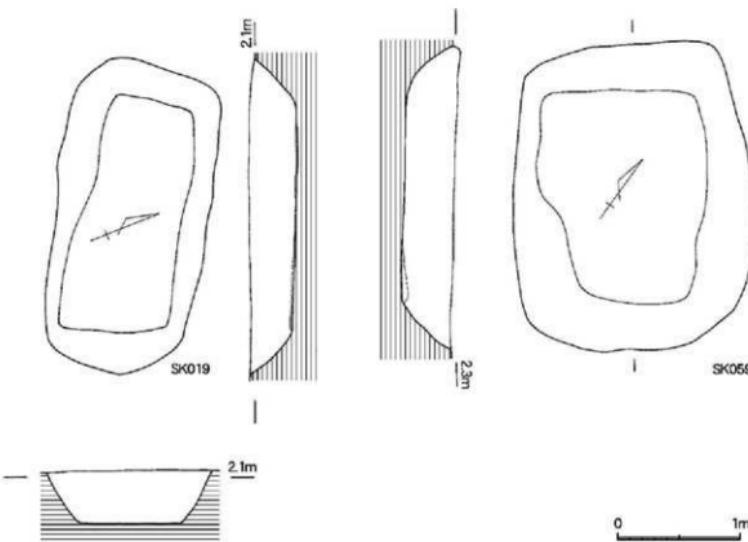


図8 SK (1/40)

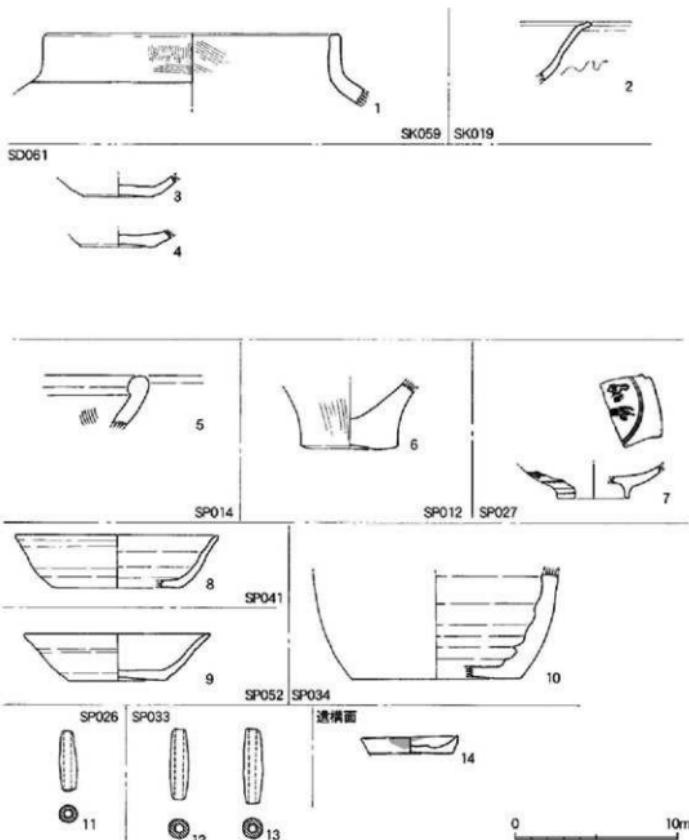


図9 出土遺物 (1/3, 1/2)

造構の深さは40cm程で、底面は平坦。埋土は黒～暗褐色シルト質土。底面の高さは標高約1.8mで、付近では湧水が認められる。遺物の出土はごくわずかである。

出土遺物(図9) 1は瓦質土器釜の口縁部片。口径(復元)16.4cmを測る。

IV 終わりに

最後に調査結果をまとめておきたい。時期の決め手に欠いているが、大概の造構は16～17世紀以前のものであるといえる。ただSD061は第4次調査の所見をふまえ、若干遡る可能性を考えておきたい。今回の調査では、中世後期から近世にかけての造構を数多く検出することができた。第4次調査における成果とあわせ、当該期における三苦地域の歴史を考える上で、貴重な資料となるだろう。



調査区南西側完掘（南東から）



調査区北側完掘（東から）



調査区南東側完掘（北から）

図版 2



SK019（西から）



SK059（西から）



調査区東側 SK（東から）

報告書抄録

ふりがな	みとま
書名	三苦遺跡群6
副書名	第6次調査報告
卷次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第905集
編著者名	藏富士 寛
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1-8-1 TEL 092-711-4667
発行年月日	西暦2006年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ○○○	東経 ○○○	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三苦遺跡	福岡県福岡市東区三苦6丁目 1268	4013	0108	33° 25' 14"	130° 42' 13"	2004.11.02～ 2004.11.19	195	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺溝	主な遺物	特記事項
三苦遺跡	集落	中世後半期 近世	土坑 溝	国产陶磁器 土師器 瓦質土器	

要約	遺溝には土坑と溝、ピット群がある。出土遺物をみれば、中世後期～近世にかけてのものであるといえるだろう。
----	---

三苦遺跡群6

福岡市埋蔵文化財調査報告書第905集

2006年3月31日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 陽文社印刷株式会社

福岡市南区大楠2丁目4番10号



遺跡名 三吉遺跡群第 6 次 遺跡略号 MTM-6 調査番号 0462